

Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



合田 直弘

日本同様、欧米でも春の3歳クラシックシーズンが目前に迫っている。そんな中、5月5日にチャーチルダウンズで行われるG1ケンタッキーオークス(d9F)の有カ馬と目されるフエイザ(牝3、父ガーヴィン)を、今月のこのコラムの主役として取り上げたい。

G1ハスケル招待S(d9F)など3重賞を制したガーヴィンの、2世代めの産駒の1頭として、20年4月14日にケンタッキーで生まれたのがフエイザだ。祖母が、G2ギャラントブルームH(d6.5F)など3重賞を制した他、G1テストS(d7F)で2着となったボメロイズピストルで、叔父に、G2ロスアラミトスフューチュリティ(d8.5F)など2重賞を制したサウザンドワーズがいるというファミリーを背景に持つ。

フアシグティプトン・ジュライ1歳市場にて9万ドル(当時のレートで約1003万円)でピンクックされた後、フアシグティプトン・ミッドランティック2歳市場に登場。公開調教で1F10秒2の時計をマークした後、セツション2番目の高値となる72万5千ドル(当時のレートで約9337万円)で現在の馬主に購買されている。

フエイザは、ボブ・バファート厩舎から2歳11月にデビュー。デルマーのメイドン

(d6F)を3.1/2馬身差で制して緒戦勝ちを飾ると、陣営は次走に、一気に相手が強化されるロスアラミトスのG1スタレットS(d8.5F)を選択。1万ドルの追加登録料を払って出走した同レースを制し、フエイザはデビュー2戦目にしてG1制覇を果たした。

3歳初戦となったのが、1月28日にサンタアニタで行われたG3ラスヴァージネスS(d8F)で、ここも勝って3連勝。さらに、3月5日に同じくサンタアニタで行われたG3サントイザベルS(d8.5F)も勝って、フエイザはデビューから継続している無敗の連勝を4に伸ばしている。

昨シーズン、米国の2歳牝馬戦線をリードしたのはマーク・キャッシ厩舎のワンダーホイルで、キーンランドのG1オールシバイアデスS(d8.5F)、G1BCジュヴェナイルフリーズ(d8.5F)を連勝してエクリプス賞最優秀2歳牝馬に選出された同馬が、ケンタッキーオークス戦線を牽引するものと見られていた。ところが、そのワンダーホイル(牝3、父イントウミスタフ)が、今季初戦となった2月11日にタンパベイダウンズで行われたLRサンコーストS(d8F40Y)で、オッズ1.5倍の1番人気を裏切り2着に敗退。株を下げることになった。

また、21年・22年と2年連続でチャン

ピオン牝馬に選出されたマラサートの全妹という良血馬で、2歳時にG2デモゼルS(d9F)を含めて2戦2勝の成績を残していたジュリアシャイニング(牝3、父カールン)も、同じくLRサンコーストSに出走して3着に敗退。さらに、2歳時にG2ゴールデンロッドS(d8.5F)を含めて3戦3勝の成績を収めていたフージャーフリー(牝3、父イントウミスタフ)もまた、今季初戦となった2月18日にラフェアグラウンズで行われたG2レイチエルアレグザンドラス(d8.5F)で3着に敗れて連勝ストップと、有力視されていた牝馬たちが、3歳になって軒並み躓きを見せている。そんな中、無敗を守っているフエイザが、ケンタッキーオークス戦線の主役の座に浮上したのである。

だが、現状のままでは、フエイザはケンタッキーオークスに出走することが出来ない。皆様もご存知のように、21年のケンタッキーダービー後、1着で入線したバファート厩舎のメデียนスピリットから禁止薬物が見つかった件で、チャーチルダウンズ競馬場はバファート調教師に2年間の出走停止処分を課しているからだ。おそらくは、かつてバファート厩舎でアシスタントを務めたティム・ヤクティーン調教師が営む厩舎に転厩することになる公算大のフエイザの今後に注目したい。